

令和7年度 第3回 男女共同参画推進委員会 議事録

日時	令和8年2月5日（木） 開会：午前10時 閉会：午前11時
会場	蕨市役所 2階 2-1 会議室
出席	足立明美委員長、加藤光男委員長職務代理、安藤さゆり委員、青木祥夫委員、小松崎和子委員、横山直子委員、成田弘子委員 事務局（課長・川邊、係長・庄野）
資料	資料1 「蕨市DV対策及び困難な問題を抱える女性支援基本計画（仮称・案）」に対するパブリック・コメント（意見募集）結果 資料2 蕨市DV対策及び困難な問題を抱える女性支援基本計画（仮称・案） 資料3 蕨市配偶者等からの暴力及び女性の暮らしと困難に関する調査結果報告書 資料4 デートDVについての意識調査結果報告書

1. 開会

2. 委員長あいさつ

会議の公開及び傍聴について「蕨市市民参画と協働を推進する条例」に基づき定められた「蕨市審議会等の会議の公開に関する要綱」により、この会議の公開を決定し、傍聴にかかる取り決めを行った。（今回の傍聴者は無し）

3. 議題

- （1）蕨市DV対策及び困難な問題を抱える女性支援基本計画（仮称・案）について
事務局から説明

【質疑応答】

（委 員）パブリック・コメントでご意見をいただいた方々は計画についてとても勉強をしていると思う。計画内容の検討については、担当課だけでなく市長なども把握しているのか。

（事務局）報告している。

(2) その他

(委 員) デートＤＶの調査は市内の中学生を対象としたのか。

(事務局) 市内３つの公立中学３年生を対象にホームルーム等の授業中に実施した。

(委 員) 地域のことになるが、高齢化や町会長を引き受ける方がいないことで、区町会がなくなることになった。区町会がなくなると防災や地域での活動がなくなり不安になる。転入者がいても町会に入らないことが問題だと思う。町会ではない形で動ける組織づくりが必要だと思う。

(委 員) 私の住んでいる地域の子ども会も入会者が少なく、子ども会がなくなった。

(委 員) 人とのつながりが希薄になっている。市の計画なども時代に沿ったものを考えていかなければならない。蕨市はコミュニティがしっかりしているのでそれを活かした方が良いと思う。

(委 員) 町会は合併などをすると良いと思う。

(委 員) ＤＶ被害者は自ら声をあげるのが難しい場合もあると思うので、周りが気づいてあげることが大切だと思う。町会がなくなっていくと家族単位になって、ＤＶが早期に発見されづらくなると思う。また、若い人達の考え方が我々の年代とは違うため、関わり辛く、おせっかいだと思われるのではないか、となかなか踏み込めない部分もあるが、町会の在り方もＤＶの早期発見や通報と言う観点から関わってくると思うので、情報共有はしたいと思う。

(委 員) 私の町会は婦人部を廃止し、町会の色々な取り組みをなるべく男女平等としているが、ここ数年の傾向としては、町会活動や役員は決まった人だけになっていて、町会に加入しない人が増えており、近所付き合いもほとんどなく、隣にどんな人が住んでいるのか知らない人もいると思う。近所の情報が入ってこない状況でＤＶの早期発見は難しく、ＤＶ被害者

自身が警察などに相談に行かなくては支援に繋がらないのが現状だと思う。私の町会では、先日、若い人に町会活動に参加してもらい町会に興味を持ってもらうために、もちつき大会を実施したところ若い人達の参加があり、積極的に取り組んでもらえた。DVの早期発見などを考えても町会の活性化は必要だと思う。

(委員) 近所に住んでいてもお付き合いがないと、家の中の様子までは分からないので、DVなどで苦しんでいる方がいても相談する相手がいないため、先ほど委員の話でもあったが、自身で警察に相談に行くのが現状だと思う。

(委員) 男女共同参画の観点から、最近は男性も育休を取得する人が増えているが、先日、知人の男性が育児休暇を2か月間取得した際に「帰ってきてもお前の居場所はない」などと言われた。その企業は男性の育児休業制度はあったが、申請を出しても上司から色々言われるなどで、初めての取得者だったとのこと。制度があっても環境が整っていないのが現状だと思う。

(委員) 私は通勤に電車を毎日利用しており、蕨や川口で降りる外国籍の方が多いが、どのようなところに居住して、どのようなところで働いているのかは見えてこない。このような環境で外国人住民と繋がりを持つことは難しいと思う。しかし、考えていかなくてはいけないことだと思う。

(委員) 本市は高齢者が増え更に外国籍の方が増え続けている。外国籍の方が地域との関わりがないと災害が起きた時に困ると思う。例えば、自分は住所が市外だが日中は市内に勤務をしている。日中は市内には高齢者が多く、若者は市外に働きに出ている中、災害が起きた場合に企業に人員や物資、場所などを協力してもらうために繋がりをもつことが必要だと思う。日中は在勤者、夜は市民、など協力する体制を考えるべきだと思う。

(委 員) 最近中学校では、生徒同士の名前を呼び合うときにあだ名で呼ばないようにし、「〇〇さん」で統一していると聞いた。いじめ防止や男女平等の意識啓発だと思う。

(委 員) 計画の「事業及び取り組み」の中に「学校等における人権教育・男女平等教育の推進」とありますが、中学校のデートＤＶ防止に向けての啓発は何をしているのか。

(事務局) R 7年度は、計画策定のために公立中学３年生を対象にデートＤＶ意識・実態調査を行ったことや毎年新中学１年生を対象にデートＤＶ防止啓発ハンドブックを配布することで周知啓発を行っている。

(委 員) それ以外の取り組みはあるか。

(事務局) 把握していない。

(委 員) ＤＶが起こってしまってから支援も必要だと思うが未然に防ぐという観点から、未成年者の中でも、特に中学生や高校生へのデートＤＶ防止啓発を啓発ハンドブックの配布だけでなく、もっと知らせることが必要だと思う。中学生のデートＤＶ意識・実態調査の結果を見るとＤＶは知っていても、デートＤＶが自分たちの身近で起こり得ることであることが分かっていない人もいるのではないかと感じる。将来のＤＶに繋がらないようにするためにも、子ども達への意識啓発をもっとすべきだと思う。今年度、私の所属している団体が、デートＤＶ防止の普及啓発活動として冊子の作成をするという内容で、市のＳＤＧｓ提案制度に応募したところ、採択されたので来年度作ることになった。そして、作成した冊子をどのように子ども達へ知らせていくことが効果的か、ということを考えている。中学校の授業などでデートＤＶ防止啓発の取り組みを進めていただくことも大切だと思う。

4. 閉 会